



## JC-SAT2008 報告

電子情報通信学会 衛星通信研究専門委員会  
委員長 篠永 英之

Japan-Korea Joint Conference on Satellite Communications (JC-SAT)は、日本・韓国の衛星通信研究者間の情報交換、相互理解を深めることを目的に、電子情報通信学会通信ソサイエティ衛星通信研究専門委員会(SAT研)と韓国の Korean Society of Space Technology (KOSST) が共催する国際会議である。本会議は 2000 年から毎年 1 回開催されており、主に取り扱うトピックとしては、

- ・衛星通信政策および規制
- ・最先端システム及び技術
- ・地球局端末及び搭載機器技術
- ・衛星における IP 技術
- ・移動及びパーソナル衛星通信、ブロードバンド衛星通信、衛星放送
- ・ネットワーク制御及び管理
- ・サービス及びアプリケーション

などが挙げられる。

9 回目となる今年の会議 JC-SAT2008 は、2008 年 11 月 6 日および 7 日の 2 日間、韓国・釜山で開催された。図1に会議場前の様子を示す。基調講演、招待講演および技術講演として 40 件の講演が行われ、参加人数はおよそ 120 名であった。

本会議は韓国側代表である KOSST の J. M. Kim 氏と、日本側代表である筆者によるオープニングスピーチで始まり、続いて 2 つの基調講演が行われた。図 2 および図 3 は、それぞれ、J. M. Kim 氏および筆者の講演の様子である。

1 件目の基調講演は、“Expanding Satellite Network Horizons” というタイトルで、Korea Telecom の K. Y. Mo 氏により行われた。この講演



図 1 JC-SAT2008 の会議場

では、Korea Telecom の概要と、衛星 Koreasat を用いたサービスについて紹介された。2 件目の基調講演は、“Satellite communication business in Japan”というタイトルで、スカパーJSAT株式会社の永井氏と名古屋氏により行われた。講演では、スカパーJSAT株式会社の紹介に加えて、衛星サービスの現状と計画について説明があった。またロシアおよび中国から研究者が招待されており、“Antennas with contoured beams: limitation capabilities and examples”、および“A modified efficient method to determine the diagonal loading factor using direct search of Gaussian distribution”がそれぞれ講演された。

技術講演は 8 つのセッションで構成され、全部で 36 件の発表が行われた。セッションタイトルは、

- ・Satellite System I
- ・Satellite System II
- ・Satellite Network
- ・System Engineering I
- ・System Engineering II.

- ・Satellite Navigation System
- ・Transmission Technology I
- ・Transmission Technology II

である。二日間に渡るそれぞれの講演について積極的な議論が行われ、盛況な会議となった。

技術講演が終わると、Korea Aerospace University の B. S. Lee 氏と SAT 研副委員長の若菜氏により会議が総括され、また電子情報通信学会が 2009 年 11 月に予定している Transactions on Communications on “Satellite Communication Technologies in Conjunction with Main Topics of JC-SAT2008” への投稿が呼びかけられた。

日本と韓国の組織委員会メンバーは、次回の会議 JC-SAT2009 を 2009 年 10 月末頃の奈良を候補として開催することに合意した。また、JC-SAT2009 をほかのアジア諸国からの参加を促す努力を行う旨を再確認した。次回会議の詳細は、電子情報通信学会の衛星通信研究専門委員会のホームページでアナウンスされる予定である。

■



図 2 KOSST の J. M. Kim 氏



図 3 筆者